

COVID-19
HMB
Manual

HANDMADE BICYCLE 2023

新型コロナウイルス対策マニュアル



HANDMADE
BICYCLE 2023



競輪の補助事業

この事業は競輪の補助を受けて実施いたします。

<https://www.jka-cycle.jp/>

■はじめに	
本マニュアルの目的	3
用語の定義	3
■HMB開催におけるCOVID-19 対策ガイドライン	
HMB開催における対策事項	5
開催期間中の注意点まとめ	7
■HMB開催中止の判断基準	
開催中止の判断基準	8
■健康観察報告	
健康観察報告フォームの提出	9
■コロナ対策チーム	
組織体制図	10
■コロナ対策連絡先一覧	
コロナ対策担当者/ 保健所	11
■会場における検温所体制	
検温所の概要	12
会場全体図	13
ブース配置図	14
■会場設置注意喚起看板	
注意喚起看板	15
■感染疑い発生時の対応フロー	
感染疑い発生時の対応フロー	16
感染疑い発生時の対応フロー（陽性確定時）	17
■コロナ対策備品リスト	
コロナ対策備品リスト	18

本マニュアルの目的

●目的

2019年末から発生し、全国に拡大している新型コロナウイルス感染症が未だ猛威を振るい、様々な大規模イベントの中止や商業施設の休業など、現在も社会的に大きな影響を受けています。

このコロナ禍において、安心・安全なイベント開催を実現するため、新型コロナウイルスの基礎知識を整理するとともに、イベント実施時の感染予防対策を明確に示し、最大限リスクを低下させることを目的としています。

また、万が一、イベント実施時に新型コロナウイルス陽性者が発生した場合は、迅速かつ的確な対応を行うためのツールとなるよう、適宜アップデートを行うものです。

用語の定義

●新型コロナウイルス感染症

「新型コロナウイルス（SARS-CoV2）」はコロナウイルスのひとつです。コロナウイルスには、一般の風邪の原因となるウイルスや、「重症急性呼吸器症候群（SARS）」や2012年以降発生している「中東呼吸器症候群（MERS）」ウイルスが含まれます。

ウイルスにはいくつかの種類があり、コロナウイルスは遺伝情報としてRNAをもつRNAウイルスの一種（一本鎖RNAウイルス）で、粒子の一番外側に「エンベロープ」という脂質からできた二重の膜を持っています。自分自身で増えることはできませんが、粘膜などの細胞に付着して入り込んで増えることができます。

ウイルスは粘膜に入り込むことができますが、健康な皮膚には入り込むことができず表面に付着するだけと言われています。物の表面についたウイルスは時間がたてば壊れてしまいます。ただし、物の種類によっては24時間～72時間くらい感染する力をもつと言われています。

手洗いは、たとえ流水だけであったとしても、ウイルスを流すことができるため有効ですし、石けんを使った手洗いはコロナウイルスの膜を壊すことができるので、更に有効です。手洗いの際は、指先、指の間、手首、手のしわ等に汚れが残りやすいといわれていますので、これらの部位は特に念入りに洗うことが重要です。また、流水と石けんでの手洗いができない時は、手指消毒用アルコールも同様に脂肪の膜を壊すことによって感染力を失わせることができます。

●濃厚接触者

濃厚接触者は、新型コロナウイルスに感染が確認された方と近距離で接触、或いは長時間接触し、感染の可能性が相対的に高くなっている方を指します。

濃厚接触かどうかを判断する上で重要な要素は、距離の近さと時間の長さです。

必要な感染予防策をせずに手で触れること、または対面で互いに手を伸ばしたら届く距離（1m程度以内）で15分以上接触があった場合に濃厚接触者と考えられます。

新型コロナウイルス感染者から、ウイルスがうつる可能性がある期間（発症2日前から入院等をした日まで）に接触のあった方々について、関係性、接触の程度などについて、保健所が調査（積極的疫学調査）を行い、個別に濃厚接触者に該当するかどうか判断します。

なお、15分間、感染者と至近距離にいたとしても、マスクの有無、会話や歌唱など発声を伴う行動や対面での接触の有無など、「3密」の状況などにより、感染の可能性は大きく異なります。そのため、最終的に濃厚接触者にあたるかどうかは、このような具体的な状況をお伺いして判断します。

用語の定義

●感染確認に使用される検査

新型コロナウイルス感染症を診断するための検査には、PCR検査、抗原定量検査、抗原定性検査等があり、いずれも被検者の細胞内にウイルスが存在しているかどうかを調べるための検査です。

(1)核酸検出検査

ウイルス遺伝子（核酸）を特異的に増幅するPCR（polymerase chain reaction）法が用いられます。検体中に遺伝子が存在しているか否かを定量的に確認する方法として、リアルタイムRT-PCR、簡便かつ短時間で結果判定ができる核酸検出方法として、LAMP（loop-mediated isothermal amplification）法やTMA（transcription mediated amplification）法等、等温で反応が進む簡易法が開発されています。

○リアルタイムRT-PCR

リアルタイム RT-PCR は定量法で、ウイルス量の比較や推移が評価でき、コピー数が推定できること等から信頼性が高いです。

○リアルタイムRT-PCR 以外のLAMP法、TMA法等の等温核酸増幅法

LAMP法やTMA法等は、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）遺伝子の検出までの工程が短縮され一定温度で実施可能な遺伝子検出法です。リアルタイムRTPCRと比較して感度は落ちますが実用範囲で、反応時間が35～50分程度と短いという利点があります。

(2)抗原検査

SARS-CoV-2の構成成分である蛋白質を、ウイルスに特異的な抗体を用いて検出する検査法です。核酸検出検査と同様に陽性の場合にはウイルスが検体中に存在することを示します。抗原検査には、定性検査と定量検査があり、抗原定性検査は有症状者においてウイルスの抗原を検出し、診断に導く検査であり、症状発症から9日目以内の症例では確定診断として用いることができます。

無症状者に対する抗原定性検査は、リアルタイムRT-PCR法等と比較し感度が低下する可能性があるため、確定診断として用いることは推奨されません。

抗原定量検査は、専用の測定機器を用いてウイルス抗原の量を定量的に測定することができます。検査に抗原と抗体反応のウォッシュ過程があり、特異度も高く、感度も簡易な核酸検出検査と同レベルであり、無症状者に対する唾液を用いた検査に使用可能なことが示されているため、空港検疫等でも活用されています。

(3)抗体検査

抗体検査はウイルスを検出する検査ではなく、ウイルスに対する抗体の有無を調べる検査です。

陽性となる時期は症状出現後、1～3週間経ってからとされています。これはウイルスRNAが検出されなくなる時期と重なり、一般に感染歴の指標に使用されますが、抗体検査が陽性であっても、その時点で被検者からウイルスが排出されていることを意味するものではありません。

●隔離

症状のある人や感染者を他の人から隔離し、感染や汚染の広がりを防止するものです。

●フィジカル・ディスタンス

感染予防に特化した言葉で、テレワークや人数制限、人と人との十分な間隔を空けるといった「感染拡大の防止に向けて身体的・物理的距離の確保」を指します。

HMB開催におけるCOVID-19 対策ガイドライン

本ガイドラインは、ハンドメイドバイシクル展（以下「HMB」）を開催するにあたり、関係者・来場者における新型コロナウイルス感染症拡大防止、リスク軽減のための対策について、各機関の提言等を参考にHMB開催に特化し、作成したものです。HMBに参加する皆様には、本ガイドラインに沿った予防対策を必ず実施いただくよう、お願いいたします。

なお、イベントの開催に際しては、日本政府（厚生労働省、スポーツ庁、日本スポーツ協会、JOCなどを含む）ないしは、開催地の都府県の方針に従うことが大前提となります。また、イベント出展・運営等に伴う移動等に関しては、国土交通省・観光庁等、関連する諸機関の指針に準拠します。
<参考資料>

- 「新型コロナウイルス感染症に関する国土交通省の対応」—国土交通省
https://www.mlit.go.jp/kikikanri/kikikanri_tk_000018.html
- 「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）病原体検査の指針」—厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/content/000788513.pdf>

HMB開催における対策事項

1. HMB全体の対策事項

- (1) 感染症対策チームの設置、帯同
- (2) HMBホームページにおいて関係者・来場者に向けた本ガイドラインの掲載及び周知
- (3) 関係者は、イベント開催1週間前から体調チェックを行い、会場入りをする前日までの記録を所定のフォームにて提出徹底
- (4) 関係者は、イベント終了後1週間は各自の体調変化に留意し、発熱や体調不良等の症状が表れた場合は、主催者に申告し、濃厚接触者等の確認を行う
- (5) イベントで規定された関係者は、会場入り日の24時間以内に抗原検査（定性または定量）を受け、陰性を確認
- (6) 感染者発覚後の隔離（スペース確保を含む）、医療機関受診、濃厚接触者の確認等プロセスの明確化
- (7) 感染症罹患者が発生した場合に備え、各開催地における医療機関や保健所と連携を図る
- (8) 会場における入退場動線作成及びサーモグラフィ設置による検温を実施し、発熱者や体調不良者は入場禁止
- (9) 会場の各所に、手指消毒液及び感染防止対策注意喚起看板を配置
- (10) イベント会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底
- (11) フィジカル・ディスタンスに留意し、常時マスクを着用する
- (12) 各食事会場、食事中においては、フィジカル・ディスタンスに留意し、極力会話を控え、会話が発生する場所では飛沫防止パネルを設置する。

HMB開催における対策事項

1. HMB全体の対策事項

(13)以下に該当する方は、イベントへのいかなる参加（会場への来場場合）も不可とする

- ①過去1週間以内から会場来場当日までに、下記a～dを含む体調不良のある方
 - a. 体温37.5°C以上
 - b. 強い倦怠感
 - c. 感冒様症状（咳、咽頭痛、息苦しさ等）
 - d. 味覚・嗅覚異常などの異変がある
- ②PCR、LAMP、抗原検査受診結果が陽性で、下記a～dに該当する方
 - a. 有症状で、発症日から8日未満、かつ症状軽快後24時間未満
 - b. 無症状病原体保有者では、検体採取日から8日未満
 - c. 無症状病原体保有者のうち、検体採取日から5日目に抗原検査等を行い、陰性が確認されていない（5日目に陰性が確認されれば6日目に解除が可能）
- ③濃厚接触者として自宅待機中（最終の陽性者との接触から5日間）

2. 会場（科学技術館）のガイドライン

イベントとして実施する感染対策に加えて、会場である科学技術館で定めるガイドラインで定める感染対策も、会場と協議をして実施する。

- ①対人距離の確保（密集状態の防止）
 - ・来場者の動線などを考慮した上で、施設各会場内の入場者数の上限（目安として700名）の密集、密接を避ける。
 - ・できるだけ人と人との距離（1m）が維持されるよう、床へのマーキング等の検討をお願いします。
 - ・来場制限等、人の流れをコントロールする人員配置を行う。
 - ・受付入口や会場内には監視安全を確保するためのスタッフ（警備員等）の配置を行う。
- ②来場時の手指のアルコール消毒の徹底
 - ・会場入口に手指消毒器を設置し、感染防止対策を徹底する
- ③マスク着用の徹底
 - ・主催者、来場者のマスク着用を徹底する
- ④風邪や発熱などの症状のある方の入場制限
 - ・症状が見られる来館者の入場はご遠慮いただくよう管理する。
 - ・来場前の検温実施のほか、来場自粛を求める条件を事前にホームページ等で周知するとと

も

に、施設の入口に明示する。

- 咳・倦怠感など風邪のような症状がある場合
- 37.5°C以上の発熱があった場合

開催期間中の注意点まとめ

以下はガイドラインから要約した内容です。

開催期間中、必ず下記を守って行動をしてください。不明点があればコロナ対策チームへお問合せください。

<コロナ対策チーム問合せ先>

所属		担当者名	連絡先
新型コロナ対策チーム 全体コーディネーター	(株)ピースフル	福島 圭介	Mail: fukushima@peaceful-hp.com TEL : 090-6156-1313
		山脇 敬義	Mail :yamawaki@peaceful-hp.com TEL : 080-9827-2547
新型コロナ対策チーム 運営責任者	(株)ルーツ・スポーツ・ ジャパン	増田 英行	Mail :masuda.hideyuki@roots-sports.jp TEL : 090-1550-9149
		佐藤 ゆみか	Mail : sato.yumika@roots-sports.jp TEL : 080-5146-6420

①来場者との接触についての基本ルール

- ・必ずマスク着用の上、2m以上確保の距離を確保し対話するようにしてください。
- ・フェイスシールドは、必須としませんが、来場者または関係者と数分間会話をするなど、飛沫リスクが高い場合は着用をしてください。

②会場以外での行動制限

- ・設営日を含めて1月20日～22日までの3日間、感染リスクの高い場所（居酒屋など）の利用はご遠慮ください。
- ・感染リスクが高いのは会場内の休憩場所、トイレなどです。基本的な感染対策を徹底してください。

③会場での検温

- ・各日程、会場入りをしたら作業・準備に入る前に必ず検温をしてください。
検温は感染対策チームが会場入り口付近で行いますので、必ず指示に従ってください。
- ・なお、来場者の入口は1か所のみでサーモグラフィでの検温を行ってから入場します。

④コロナ感染対策装着物

- ・マスク：スタッフは全員必ず「不織布マスク」を着用してください。
- ・フェイスシールド：ガイドライン上必須ではありませんが、来場者、関係者と対話が続く場合は可能な限り着用をしてください。

開催中止の判断基準

1. 日本政府または開催地域の東京都、千代田区の自治体より、イベントの延期・自粛・中止要請が発令された場合。
2. 会場の科学技術館から延期・自粛・中止要請が発令された場合。
3. 開催期間中に関係者及び来場者内で新型コロナウイルス感染症のクラスター感染が発生した場合。
4. その他、イベントを中止せざるを得ない事象が発生した場合。

以上、延期はしないものとする。

行動履歴・健康観察報告フォームの提出

イベントに執務するすべての方が対象です。
イベント当日の2週間前までの期間の健康状態及び行動履歴について、所定の用紙を使用し、1/21（土）会場到着時に提出します。

【行動履歴・健康観察報告フォーム】



ハンドメイドバイシクル展2023 関係者向け行動履歴・健康チェック用紙

該当期間：令和5年1月14日から1月20日まで

該当期間内において、下記項目に当てはまる項目がないことを確認し、ご所属・ご氏名の記入をお願いいたします。

【行動履歴・健康チェック項目】

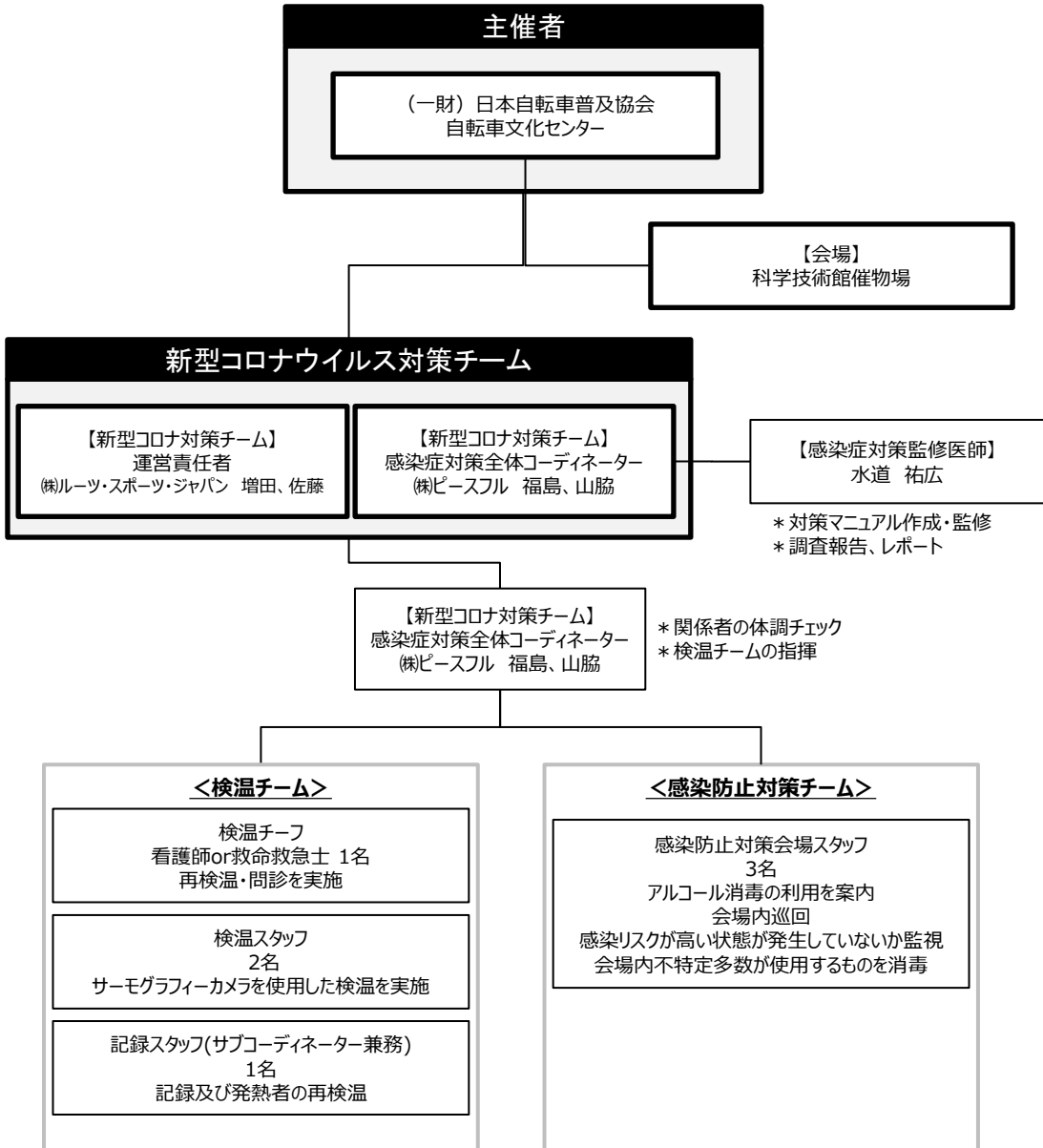
- 37.5°Cを超える発熱
- せき、のどの痛みなどの風邪症状
- だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
- 嗅覚や味覚の異常
- 体が重く感じる、だるいなどの症状
- 新型コロナウイルス感染症陽性と診断された人と濃厚接触
- 同居家族や身近な知人に感染が疑われる人がいる
- 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は該当事との濃厚接触をした

以上の項目において、該当する項目はありません。

ご所属 _____

氏名 _____

組織体制図



コロナ対策担当者

所属		担当者名	連絡先
新型コロナ対策チーム 全体コーディネーター	(株)ピースフル	福島 圭介	Mail: fukushima@peaceful-hp.com TEL:090-6156-1313
		山脇 敬義	Mail :yamawaki@peaceful-hp.com TEL : 080-9827-2547
新型コロナ対策チーム 運営責任者	(株)ルーツ・スポーツ・ ジャパン	増田 英行	Mail :masuda.hideyuki@roots-sports.jp TEL:090-1550-9149
		佐藤 ゆみか	Mail : sato.yumika@roots-sports.jp TEL : 080-5146-6420
主催者	(一財)日本自転車普及協会	村山 吾郎	Mail: murayama@jifu.jp TEL:090-4076-8844

東京都指定相談窓口・保健所

	時間	電話番号	左記以外	電話番号
東京都発熱相談センター 東京都／東京都福祉保健局	24時間 (土日祝含む毎日)	03-5320-4592	—	—

検温所の概要

●使用機材

検温所は会場入り口に設置し、検温所看板、テーブル、手指消毒アルコールを設置し、サーモグラフィカメラを使用して検温所を通過する来場者の検温を実施します。
検温所で 37.5°C 以上を計測した場合には、体温計および問診票を使用して再検温を行います。

●人員配置

検温所は検温スタッフ2名、記録員1名、を配置します。また、会場内には感染防止対策会場スタッフ7名が巡回し、アルコール消毒の利用を案内、感染リスクが高い状態が発生していないか監視します。

記録員は、検温数の記録を行うことと発熱を検出した際の来場者を確保し、再検温を行うチーフ（医療従事者）へ引き継ぎを行います。

チーフを1名配置し、検温所で 37.5 以上を計測した場合に再検温及び体調等の問診を実施して感染の疑いがないかを判定します。

●検温フロー

検温および再検温では以下のフローに従って入場の可否を判断します。

<入場可能>

検温所 37.4°C 以下

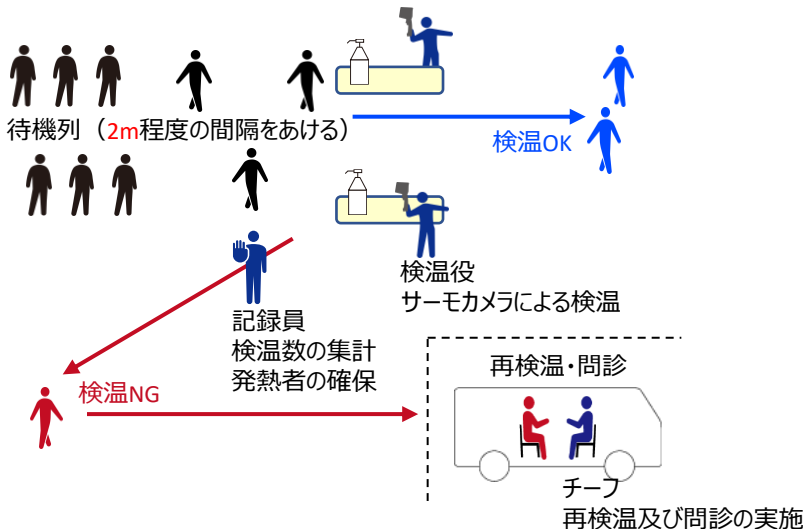
検温所 37.5°C 以上 再検温 37.4°C 以下 問診結果問題なし

<入場不可>

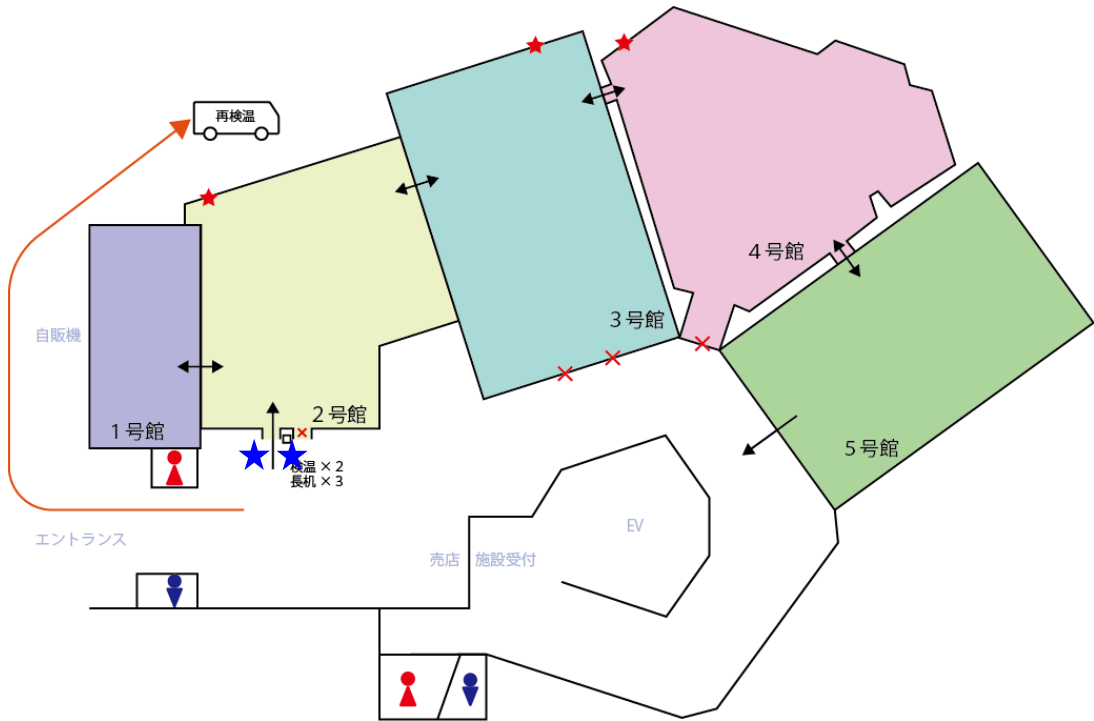
検温所 37.5°C 以上 再検温 37.4°C 以下 問診結果問題あり

検温所 37.5°C 以上 再検温 37.5°C 以上

●検温所レイアウト

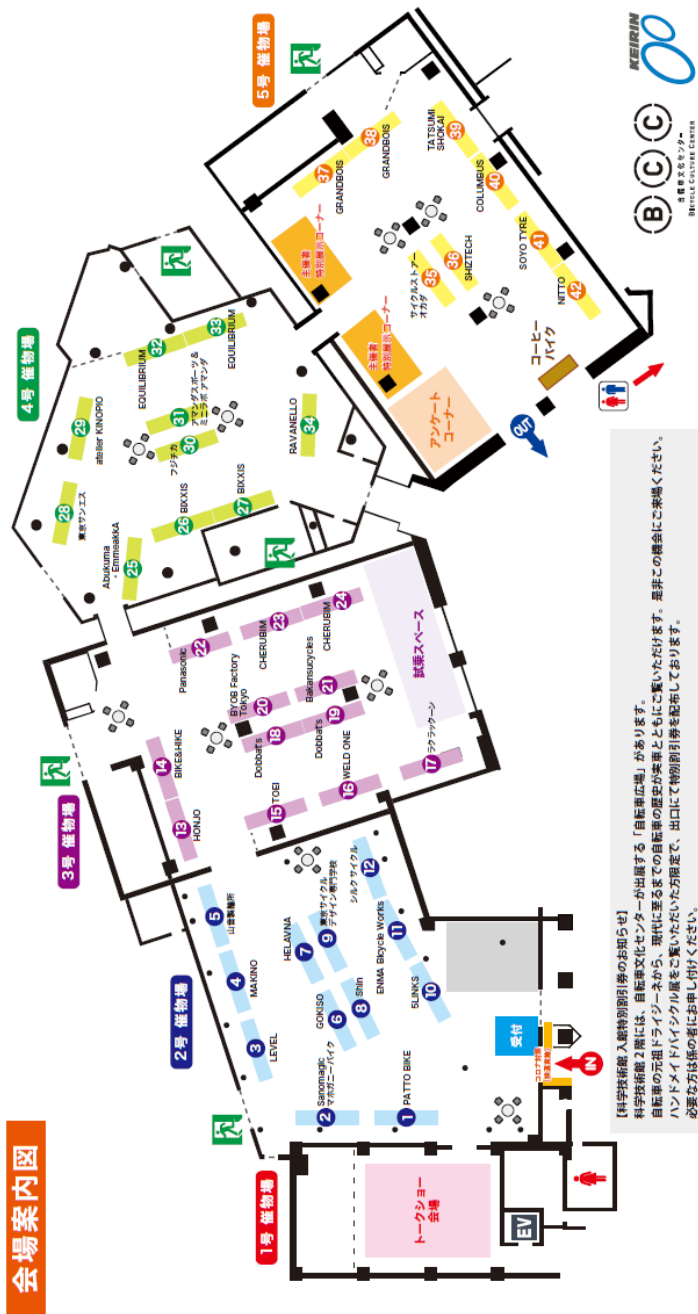


会場全体図



- ★ : 検温所
- ★ : 搬入口
- ↔ : 進行方向、通用口
- 🚌 : 再検温所 (車両)
- ✕ : 締切の出入口

会場内ブース配置図



【科学技術振興入館特別開券のお知らせ】
 科学技術振興入館には、自転車文化センターが所属する「自転車広場」があります。
 自転車の浜田トライアソンから、現地に到着するまでの自転車の運送が無料とともにご覧いただけます。
 ハンドメイド/バイシクル展をご覧いただいた方限定で、出口にて特別開券を配布しております。
 必要な方は係の者にお申し付けください。

会場案内図

■検温所 1枚

■場内 5枚

【検温所】

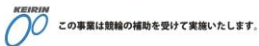
新型コロナウイルス
感染予防対策実施中！

サーモグラフィによる検温を実施中です
ご理解とご協力をお願いいたします

感染拡大防止のため、
37.5°C以上の発熱が
認められる方は、
会場内へのご入場を
お断りいたします。
また、微熱がある方は
再検温をさせていただきます。



*再入場時も検温いたします



コロナウイルス 感染予防対策実施中！

ご理解とご協力をお願いします。



お守りいただけない場合、退去をお願いする場合がございます。
体調が悪くなった方は、速やかに帰宅しましょう。



発熱者・感染疑い(疑似症者)発生時の緊急対応フロー

発熱者・コロナ
疑似症者発生

※コロナ対策チームと主催者は、体調不良者が出た時点で、随時情報共有を行う。
※体調不良者が出た段階で対象者の個人情報を取得する

コロナ対策チームによる
再検温・問診実施

37.5℃以上or
コロナ関連症状あり

症状の評価

緊急性あり

救急要請

緊急性無し

帰 宅

家族関係者・明らかな濃厚接触者がいる場合には帰宅を促す。

37.5℃未満
コロナ関連症状なし

入場可

当該発熱・コロナ感染疑似症者の行動歴をもとにイベントの続行可否を判断

【陽性疑いが出た場合の対応】

■ 対保健所

- ・会場の再検温所では「陽性確定」ができないため、帰宅した居住地の保健所に個々人から必要に応じて連絡をしてもらう。
- ・クラスターレベルが発生した場合は、主催者から保健所へ連絡をする。

■ 対来場者（体調不良者）

- ・後日検査後、陽性確定の場合は必ずイベント事務協側へ申し出るように伝える。

感染疑い発生時の緊急対応フロー（陽性確定時）

陽性者（確定）が出た際、該当地域保健所が陽性者の行動履歴をヒアリングしてサーベイランスを約1日かけて行う。サーベイランスの結果次第で、濃厚接触者を確定する。

濃厚接触者とは

「濃厚接触者」とは、感染者（確定）の感染可能期間内（発症日の2日前から、診断後に隔離などをされるまでの期間）に接触した者の内、次の範囲に該当する人とされている。

- 1.感染者（確定）と同居、あるいは長時間の接触（車内・航空機など）があった人
- 2.適切な感染防護なしに感染者（確定）を診察、看護もしくは介護した人
- 3.感染者（確定）の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い人
- 4.その他、手で触れることの出来る距離（目安として1メートル）で、必要な感染予防策（マスクなど）なしで15分以上接触があった人（周辺の環境や接触の状況等個々の状況から感染者（確定）の感染性を総合的に判断する）

（国立感染症研究所「積極的疫学調査実施要領」より）

「濃厚接触者」に該当するかどうかは、保健所が聞き取り調査を行った結果から、総合的に判断して決める。

コロナ対策備品リスト

【関係者配布物】

備品	数量	備考
フェイスシールド	50個	出展社用 + 予備
不織布マスク (個包装)	20個	関係者配布用 (忘れた方)
不織布マスク (個包装なし)	150個	来場者配布用 (忘れた方)
ゴム手袋	200セット	出展社用

【検温所・コロナ対策チーム所持】

備品	数量	備考
サーマルカメラ (BS-K1TA70MI-T)	2台	
ハンディタイプ非接触型検温機	3台	
会場内検温所及び注意喚起看板	6枚	
防護服	2着	
除菌シート (100枚入り)	2個	
消毒液ボトル設置テーブル	2台	
飛沫防止パネル	9枚	商談テーブル用
手指消毒液	10L	
消毒液噴霧器	60本	商談テーブル/ビルダー/検温所
無線	7台	
会場内混雑度表示用パソコン	1台	
感染症対策スタッフビブス	人数分	



機種名: FLIR E4-XT



感染症対策スタッフは左記のビブスを着用



**HANDMADE
BICYCLE 2023**